

8月例会 高峰高原植物観察会

(8月23日～24日)

33人の参加者が大型バスに乗り、7時に横浜駅を出発し、上信越自動車道を通り、第1日目の目的地、池の平湿原に向かった。雨模様の空で、現地の天気が心配されたが、目的地に近付くと、天気が好転し、地藏峠を通過して池の平湿原の駐車場に着いた時には青空が見え、陽もさしていた。駐車場で休憩後、12時から2班に分かれ、長い列をなして池の平湿原の北東側にある丘陵を通る山道を歩き、植物観察を開始した。道沿いには、ヤナギラン、シャジクソウ、カワラナデシコ、ハクサンフウロ、ノアザミ、アキノキリンソウ、ホソバノキリンソウ、マツムシソウ、ミヤマニンジン、ホタルサイコなどの秋の花々が咲きそろい、参加者を迎えてくれた。

池の平湿原の南側にある樹林を抜ける道沿いには、花が咲き終わったリンネソウの群落があり、地面を這う細い茎と、丸い小さな葉と、その上に少し伸びて二股に分かれた花茎の先端に、小さい実のようなものを観察した。

池の平湿原に至り、モウセンゴケが見られるアヤメ池周辺の植物の観察を試みたが、予定より残り時間が少なくなったため、木道を周るコースを断念し、直進する道を駐車場に向かった。その道の脇にはウメバチソウ、ヒナマツヨイグサなどを見た。

池の平湿原から高峰高原に行ける近道の林道は大型バスが通ったという実績がなかったので、安全のため小諸を経由する廻り道を選び、チェリーパークライン経由で高峰高原ホテルに向かった。宿の駐車場には17時10分に着き、18時から展望レストランで夕食を摂った。夕食後に勝山会長から、当日に観察した植物等についての説明があった。

第2日目は7時に朝食を摂り、弁当を受け取って8時15分に集合し、準備体操後に高峯山に登る山道を歩き始め、植物観察を開始した。

高峯山は花の百名山として知られており、道の脇にはシャジクソウ、ガンコウラン、ミネズオウ、オオカメノキ、シュロソウ、クロマメノキ、シラタマノキ、キオン、オヤマリンドウ、ミヤマセンキュウ、ホタルサイコ、アマニュウ、ツリガネニンジン、ウスユキソウ、シモツケ、シモツケソウ、テガタチドリ、グンバイヅル、イワハタザオ、トウミトウヒレン、ウラジロヨウラク、コヨウラクツツジ、イワインチン、マツムシソウ、クルマユリ、ハンゴンソウ、ウスユキソウ、ツノハシバミ、ヤナギラン、マイヅルソウ、サラシナショウマ、バッコヤナギ、コキンレイカ、ホタルサイコ、オオバスノキ、クロウスゴ、ミヤマシシウド、ヤマオダマキ、ハクサンイチゲ、イネ科のイワノガリヤス、ヒゲノガリヤス、タカネコウボウなどの植物を観察した。

高峯山からの下山では分岐点の粒の平から高原の車道に出る途中、ハナチダケサシ、アサマヒゴタイ、コメツツジ、ウラジロハナヒリノキを見ながら山道を歩いた。

高峰高原からランプの宿に向かう車道の脇には、シラネセンキュウやクリンソウなどの植物を観察できた。車道に出てから、運転士に電話をしてバスに出迎えを頼み、JRバスが使っている高峰温泉のバス停でUターンをし、14時には参加者全員がバスに乗って帰途についた。18時に横浜駅西口に到着した。今回の8月例会は2日間好天に恵まれ、宿の夕食のフランス料理も美味しく、有意義な植物観察会であった。

(遠藤康彦 記)



マルバダケブキ (キク科)



ヤナギラン (アカバナ科)



イブキジャコウソウ (シソ科)



ウスユキソウ (キク科) と
ハナイカリ (リンドウ科)



ホソバノキリンソウ (ベンケイソウ科)



コキンレイカ (ハクサンオミナエシ)
(スイカズラ科)



シャジクソウ (マメ科)



シラタマノキ (ツツジ科)



ハクサンフウロ (フウロソウ科)



マツムシソウ (スイカズラ科) と
ヤマハハコ (キク科)



高峯山々頂付近